



片柳中学校だより

片柳

第12号 令和6年3月1日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

別れの季節へ

校長 加藤 明良

暖かくなったり、また真冬の寒さに戻ったりと寒暖の変化に体が追いついていかない日が続いています。暖かさの影響でスキー場の雪も解けてしまって3月の営業が難しくなった所もあるようです。本校の2年生は1か月前になりますが、福島県南会津町たかつえスキー場で3日間の自然の教室を無事に終えることができました。幸い天候にも恵まれ、実施前に降った大雪で量質ともにほどよく絶好のコンディションの下で行うことができました。2年生はあと2か月後の5月10日からの京都・奈良を巡る修学旅行が待っています。自然の教室で学んだ貴重な経験を、次の修学旅行につなげてほしいと思います。

さて、時の経つのは早いもので、いよいよ別れの季節、卒業の時期となってしまいました。ネット上で卒業式の歴史を調べてみると、学校制度が確立された明治10年頃から始まったようです。その後、全国各地の学校で式次第が整えられ、卒業生が先生や保護者に感謝の気持ちを伝え、課程を修了した証として証書もらう形式が一般的になったとのこと。ちなみに欧米では、学位授与の式典やパーティなどがありますが日本でいう卒業式はなく、世界の中で日本と韓国だけで行われているようです。よくハリウッド映画の中で卒業のときに一斉に帽子を飛ばしたりするようなシーンがありますが、学位授与式であったり、軍隊への任官式であったりと、私たちが目にする日本の卒業式とは別物であるとのことでした。

コロナ禍の中で卒業式の在り方もいろいろと変化がありました。みなさんも小学校での卒業式を思い出してみると、いろいろと制限や制約の中での卒業式ではなかったでしょうか。今から4年前、私は前任の中学校での卒業式を思い出しました。参加者は卒業生のみ、一人ひとりの卒業証書授与もなく、校長の式辞も一言で終わり、校歌、式歌の斉唱もなく、入場から退場まで10分ほどで終了した記憶があります。実は、卒業式そのものはそれで終了したのですが、その後、3年生だけでマスクをして歌を歌い、別れの言葉を先生方に披露するという形の会を行いました。その時は、このコロナ禍の中でできるギリギリの形であり、卒業生に対しては申し訳ない気持ちでいっぱいでした。1年ごとに規制も緩和され、昨年度は1年生から3年生までの全校生徒が一堂に会しての卒業式を行うことができました。残念ながら、保護者の参加については少し規制をかけさせていただきましたが、いよいよ今年からは、従来の保護者も来賓も制限なしで実施する予定です。

やはり、卒業式は、中学校としても最大の行事の一つです。一人ひとりが卒業証書を受け、厳粛な雰囲気の中で保護者、地域の方々と共に卒業を祝うとともに、新しい進路に向けての決意を固める日です。言うまでもなく、義務教育9年間の集大成の日でもあります。中には、伝統的な卒業式なんてもう古くさいし、感動的な式はいらないという意見の人もいるかもしれません。しかし、日本で150年続いてきた伝統的な儀式としての卒業式の場合は皆さんが成長していく過程の中であって大切な機会であると考えます。ぜひ、厳粛な中にも温かみのある卒業式を行い、みんなで門出をお祝いしたいと思います。

そして、学校の次の主役となる2年生や1年生への期待も高まってきます。先日は、学校運営協議会に生徒会本部役員と専門委員会委員長の人たちが参加し、学校と地域が一体となることができることを議論してもらいました。地域の方々からは、「若い人の意見が直接聞けてよかった。」「中学生たちが真剣に地域のことを考えてくれていることがうれしかった。」との声が聞かれました。地域と共に歩む学校づくりを進めたいと思います。